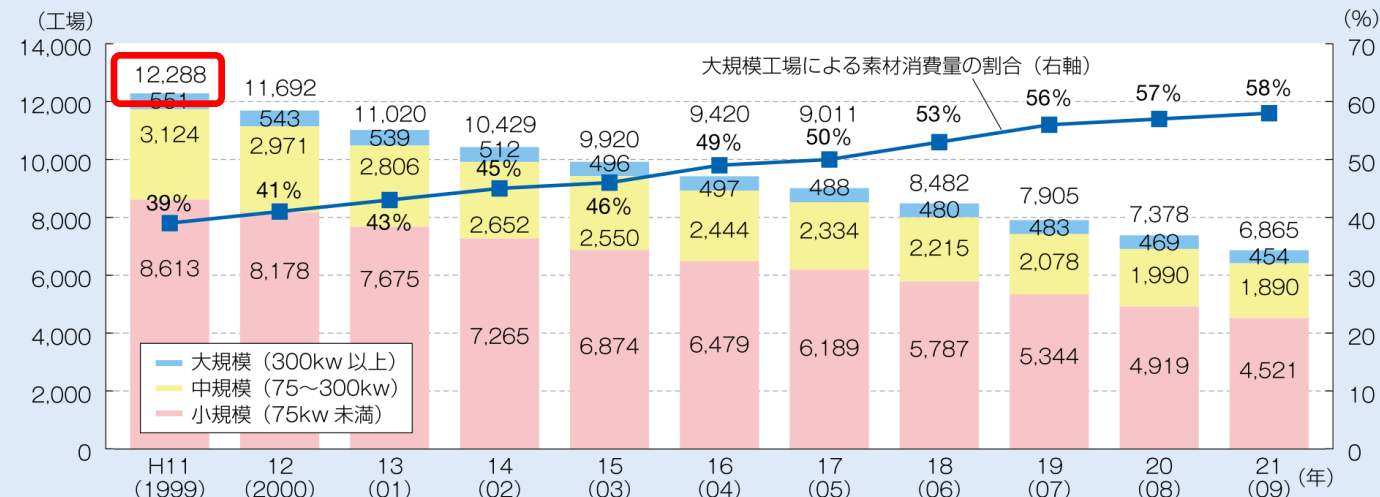


母船式木流システムと工場再生

母船式木流システムのもう1つの効果として、地域の製材業者の再生があげられます。

図V-17 出力規模別の製材工場数、大規模工場による素材消費量の割合の推移



資料：農林水産省「木材需給報告書」、「木材統計」

注：計の不一致は四捨五入による。

(製材業の概要)

我が国の製材工場数は、令和4(2022)年末現在で3,804工場であり、前年より144工場減少した。近年は、出力階層別にみると、75.0kW未満の階層で減少し、それ以外の階層では増加している⁷²。

R5森林・林業白書より

H23森林・林業白書より

平成11年には全国で12,288あった製材工場は、令和4年には3,804になっています。33年間で8,404減っているということは、1年間で250以上の製材工場が何らかの理由で仕事を辞めていることとなります。





ウッドロード構想

日本の気候で育った木は、日本の夏の暑さや湿度、冬の厳しい寒さや雪に適応しています。この日本で木造建築を建てるなら、日本で育った木材を使うことが最良です。また、地産地消を行うことで森を育てることにもつながります。国産材の良さをもっと知ってほしい。永く、健やかな生活を支えるのは国産の木材であると考えます。

トーセンはこの考えのもと、母船式木流システムにより、国産材の安定供給の仕組み作りに取り組んできました。

トーセンが本拠地を構える栃木県矢板市を中心に、北関東を斜めに横切る山林のエリア。

この一帯は、戦後復興の為の拡大造林の時期に植えられた木材が非常に豊富です。当時の造林家の施業管理は非常にきめ細やかで、適度に密植であるため、目の詰まった良質な木材が安定して供給されます。

このことからトーセンではこの北関東一帯を「ウッドロード」と呼んでいます。

トーセンではこの「ウッドロード構想」のもと、豊富な森林資源を背景に、関東平野の山裾に製材工場を配置しています。これを基盤に、母船式木流システムを核とした国産材の安定供給・地産地消をすすめ、林業・木材産業という地域に根ざした産業からの地域活性化・地方創生を目指しています。

